ダグール語の音韻
——共時的記述と通時的記述——

大竹 昌巳

1　はじめに

ダグール語は，中華人民共和国の内蒙古自治区フルンボイル市（旧フルンボイル盟）や黒竜江省，新疆ウイグル自治区等に居住するダグール族によって使用されるモンゴル系の言語である。日本では「ダグール」「ダフール」「ダウール」などの呼称があるが，本稿では言語学者の慣例である「ダグール」を用いる[1]。

2000 年センサスによればダグール族の人口は 132,394 人とされるが，ダグール語の話者数については詳らかではない。話者の多くは，漢語やモンゴル語など在地の優勢言語との多言語併用者である。固有の文字はもたない[2]。

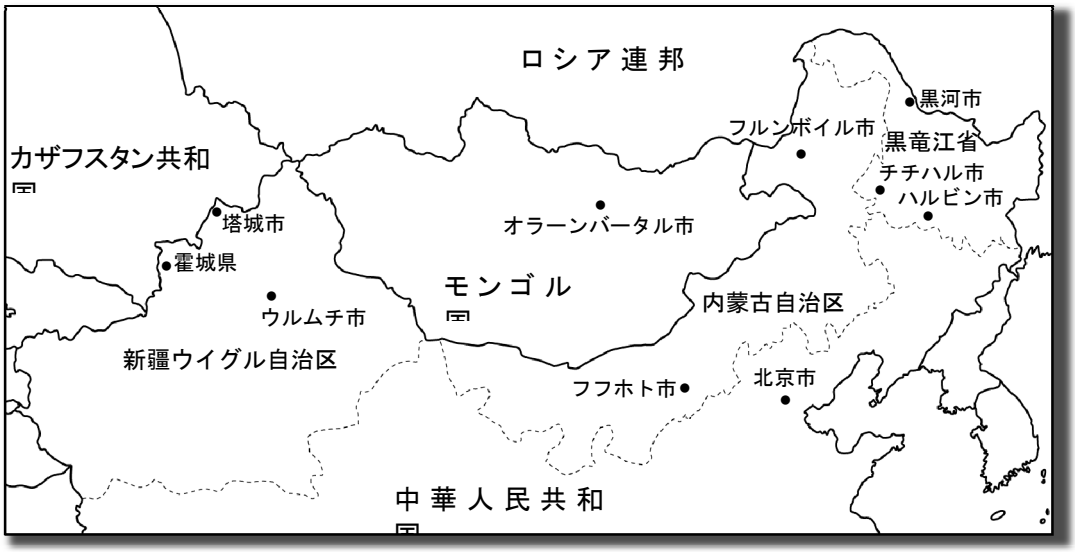

図 1　ダグール語関連地図

ダグール語はモンゴル語族の中で伝統的に「孤立的諸言語 (isolated/peripheral languages)」の一つに数えられており，他のモンゴル系言語では失われた古い特徴を保存する一方で，独自の改変も多く見られる。また，モンゴル語族の中で最東端に位置するという地理的な

---

[1] この他にも「ダウル」「ダオル」「ダオール」「ダグル」「ダゴル」「ダゴール」「ダフル」「ダホル」「ダホール」といった表記が確認される。

[2] 清朝期には一部のダグール人が満洲文字を用いて文学作品等を書き残した（恩和巴図 1996 等）。また，過去には正書法制定の試みも幾度か見られたが，実現には至らなかった。

要因から，過去にトゥングース系言語との接触もあり，歴史的な経緯から満洲語の語彙も多く借用されている。

本稿では，ダグール語の音韻に関して共時的および通時的な記述を行う。共時的記述の対象は，都市部のダグール語変種である（2.2 節）。具体的には，ダグール族の非集住地域であるフフホト市出身のダグール族男性のダグール語を扱う。2.3 節では，ダグール語諸方言との比較に基づいて，X 方言を共時的に位置づける。都市部のダグール語変種にはモンゴル語の影響が看取されたため，第 3 節の通時的記述ではダグール語とモンゴル語との相違について述べ，第 2 節の内容を補う。

2　フフホトのダグール語

2.1　調査協力者について

調査協力者である暁敏（ショウミン）氏は 1977 年 3 月 25 日，現在の内蒙古自治区フルンボイル市エウェンキー族自治旗の生まれ。両親ともにダグール族で，父はエウェンキー族自治旗の，母は同市モリンダワー＝ダグール族自治旗の出身。2 歳からは同自治区フフホト市で育ち，高校までモンゴル語による教育を受ける。高卒後来日し，現在は愛知大学にポストドクターとして在籍しておられる。日常的には日本語・漢語・モンゴル語・ダグール語を使用するが，ダグール語の使用は主に家族との会話に限られる。

氏は過去に，モンゴル族の寮制の小学校に通い，全くダグール語を使用しない時期があったため，その当時主として使用したモンゴル語が，のちに再習得したダグール語に影響を及ぼしていると考えられ，自身にもそのような認識がある。

本稿で扱うデータの大半は語彙調査で得られたものである[3]。ダグール語の音韻を詳細にわたって分析するにはさらなる調査が必要である。

暁敏氏のダグール語は，上記のような経緯から，今までに報告されているダグール語とは異なる特徴が認められたため，本稿では，暁敏氏の個人語を X 方言[4]と仮称する。以下では，ダグール語 X 方言の音韻について現状のデータに基づき概観した後，ダグール語諸方言との関係についても述べる。

2.2　ダグール語 X 方言の音韻特徴

2.2.1　母音

■第一音節の短母音

第一音節に立ちうる短母音は次の 7 種類である。本稿で用いる X 方言表記と，その標準的な音価，語例を次に示す。

---

[3] 調査は 2011 年 3 月 5 日・6 日に，協力者の在籍する愛知大学豊橋キャンパスで行った。調査協力を快諾し，忙しい中時間を割いて下さった暁敏氏および調査協力者を紹介して下さった大阪大学の角道正佳教授に，感謝申し上げる。

[4] 氏の名前（Xiǎomǐn）の頭文字および出身地フフホト [xɵx χɔt] の頭文字をとったもの。

(1)　a [ɑ̟]　gal　「火」
　　ə [ə]　gəl-　「言う」
　　o [ɔ̟]　gol　「川」
　　u [u̟]　kul　「足」
　　i [i]　čik　「耳」
　　ȧ [ɛ]　tȧb　「50」
　　ȯ [œ̟]　mȯr　「馬」

表 1　X 方言の第一音節の短母音

	前舌		中舌	後舌	
	非円唇	円唇	非円唇	非円	円唇
狭	i				u
半狭			ə		
半広	ȧ	ȯ			o
広				a	

o の円唇性は概して弱く，[ʌ] に近い音声が聞かれることが往々にしてある（後述）。

以下では，音声表記を用いる場合でも簡略化して a [ɑ], ə [ə], o [ɔ], u [u], i [i], ȧ [ɛ], ȯ [œ] と表記する。

■長母音・二重母音

調査範囲では ȯ 以外のすべての母音が対応する長母音をもつ。本稿では，対応する短母音を 2 つ重ねることによって長母音を表す。二重母音としては 6 つの下降二重母音 ai, əi, oi, ui, au, əu [äe̯ e̱i̯ ɔ̟e̯ u̟i̯ ɑo̯ ɤ̟u̯]（以下では [ɑe̯ ei̯ ɔe̯ ui̯ ɑo̯ ɤu̯] と略記）がある。

■母音の弱化

第二音節以降では全ての母音が弱化しており，長母音も特に閉音節で短く発音される。ただし，長母音の音色は弱化しない（baraaN [b̥ɑraːŋ]「多い」：barooN [b̥ɑroːŋ]「右，西」）。

一方，短母音では曖昧な音色の母音（第一音節の母音の音色に依存する）が聞かれ，šad̲ə̲l「能力」～ šadl-aar「能力によって」のように音配列によってゼロとも交替する。このような母音は，特定の子音連続を制限するために挿入されるプロソディックな性格をもつものと考えられ，音素と言えるかは疑問である。

本稿では，第二音節以降の短母音に対して，母音が聞かれたところに ə を記す表記法を採った。ただし，硬口蓋子音 č, ǰ, š, ň, y や口蓋化子音の後ろでは，顕著に i の音色を帯びた弱化母音が聞かれるので，その場合は i で表記した。

■円唇母音の音価

ダグール語（以下 Da.と略記）では，円唇母音は o [ɔ] と u [u] しか存在せず，原則として，モンゴル語の o [ɔ] と u [o] には Da. o [ɔ] が，モンゴル語の ö [ɵ] と ü [u] には Da. u [u] が対応する（第 3 節 (21) 参照）。従って，次に示すモンゴル語（内蒙古の標準的方言とされるチャハル方言（Ca.）で代表させる）[5] のミニマルペアは，ダグール語では同音異義語となるが，X 方言においても同様であることを話者の内省と筆者の聴覚印象により確認した。

---

[5] 調査協力者が標準的なチャハル方言を用いているとは断定できない。なぜなら，調査協力者が幼少期を過ごしたフフホトは，方言地図上ではチャハル方言が話されている地域にはあるものの，チャハル方言と他の方言が混在する都市だからである。

(2)	X	Da.	Ca.	gloss	X	Da.	Ca.	gloss
a.	[tʰɔs]	tos	dos	「油」	[tʰɔs]	tos-	dus-	「当たる」
b.	[b̥ɔd-]	bod-	bod-	「思う，考える」	[b̥ɔd-]	bod-	bud-	「染める」
c.	[ur]	ur	ör	「借金」	[ur]	ur	ür	「種」

ところが，X 方言の音声実現には，モンゴル語とのコード・ミキシングが観察される場合がある。例えば，X. [tɕʰos]（Ca. ǰus）「血」や X. [olɑˑŋ]（Ca. ulaaŋ）「赤い」，X. [b̥ɑroˑŋ]（Ca. baruuŋ）「右，西」のようにモンゴル語の u [o] に対して X 方言で [ɔ] ではなく [o] が聞かれ，X. [mɵŋg]（Ca. möŋg）「銀」のようにモンゴル語の ö [ɵ] に対して X 方言で [u] ではなく [ɵ] が聞かれる。

前述したように広めの o [ɔ] はしばしば [ʌ] に近い円唇性の微弱な発音が聞かれるこれは [ʌd̥]（Ca. od）「星」，[xʌl]（Ca. xol）「遠い」，[tʰʌr̥tɕʰ]（Ca. dobč）「ボタン」のようにモンゴル語の o [ɔ] に対して聞かれることが多い。恩和巴图 [编著]（1988: 33）によると，この円唇性の弱い o はモンゴル語の特徴であって，標準的なダグール語の o はそれよりも円唇の程度が強いという[6]。

しかしながら，X 方言では，次のようにモンゴル語の u [o] に対してもこの発音が聞かれる（ただし調査範囲では絶対語頭に限られる）。

(3)	Da.	Ca.	gloss
	[ʌs]	us	「水」
	[ʌr̥tʰ]	urt	「長い」
	[ʌlɘ̆r]	uls「国家」	「人々」

基本的には，(2) でみたようにモンゴル語における [ɔ] と [o] との差異や [ɵ] と [u] との差異は，ダグール語においては余剰な区別であり，それらはそれぞれ /o/, /u/ の自由異音なので，本稿では両者を表記し分けていない。ただし，この点については再度調査する必要がある。

2.2.2　子音

X 方言は，単純子音，口蓋化子音，円唇化子音の 3 系列の子音を有する。

■単純子音

単純子音は，表 2 に示す 18 種類である。

---

[6] ただし，モンゴル語の影響が強いハイラル方言（後述）では，モンゴル語のような非円唇母音の [ʌ] に近い発音が聞かれることがあるという（ibid.）。

表 2　X 方言の単純子音

	両唇音	歯茎音	歯茎硬口蓋音 ・硬口蓋音	軟口蓋音
破裂音・破擦音	p / b	t / d	č / ǰ	k / g
摩擦音		s	š	x
鼻音	m	n	ň	
顫動音		r		
側面音		l		
接近音	w		y	

破裂音・破擦音の p, t, č, k（以下「硬音」と呼ぶ）は，b, d, ǰ, g（以下「軟音」と呼ぶ）に比べて，呼気が強く，閉鎖も強い（閉鎖の持続時間が長い）。そのため，硬音は基本的に無声有気音で実現するのに対し，軟音は通常無声無気音だが，非語頭（特に語中）では有声音として実現することが多く，b や g の場合は摩擦音化を起こすことも多い。

摩擦音 s, š, x は，音節構造等に関して硬音の破裂音と似た特徴をもつので，以下ではそれらを含めて硬音と呼ぶ。

顫動音 r はふるえ音 [r] 或いは単顫動音 [ɾ] である。側面音 l は通常接近音 [l] だが，音節末では摩擦を伴う [ɮ] も聞かれる。

歯茎硬口蓋音 š [ɕ], ň [ȵ] がそれぞれ歯茎音 s, n と別々の音素をなすかどうかは調査できておらず[7]，特に後者は ny と解釈される余地がある。

■口蓋化子音・唇音化子音

口蓋化子音や唇音化子音は，対応する単純子音にそれぞれ y, w を附して表す。調査した限りでは，口蓋化子音は両唇音，歯茎音，軟口蓋音に見られ，唇音化子音は歯茎音と軟口蓋音に見られる。

（歯茎）硬口蓋音には単純子音と口蓋化子音との対立がなく，両唇音には単純子音と唇音化子音との対立がないと考えられる[8]。また，i の前の子音は口蓋化を伴い，u の前の子音は唇音化を伴うので，これらの音環境において単純子音と口蓋化・唇音化子音は対立しない。これらの場合には表記上，y や w を記さない。

X 方言では，口蓋化子音はどの位置にも立ちうる（ただし語末ではまれ）が，唇音化子

---

[7] 通時的にはダグール語の *i の前の s は š に変化したため，同一形態素中において si という音連続は存在しないが，共時的には，形態素境界を挟んで i の前に s が立ちうる（os-ii [osiː]「水の／水を」*[oɕiː]（Tsumagari 2003: 132））。

[8] 恩和巴图 [编著]（1988: 136）では m^{w}əːr「車輪の外縁部」：məːr「喰う（pejorative）」というミニマルペアがあり，両唇音にも対立があるとするが，Тодаева (1986) は前者の語について *мэ̄р* と記している。X 方言ではこれに対応する語が得られなかったため不明。

音は非音節頭に認める根拠は音声的にも形態論的にも見出せなかった[9]。

以下に口蓋化子音・唇音化子音の各位置における語例を示す。

(4)	語頭：	myag	[mʲɑǧ]	「肉」	xwar	[xʷɑr]	「雨」
	語中：	əriN	[ərʲĭŋ]	「季節」	nugwaa	[nugʷɑˑ]	「野菜」
	語末：	tauly	[tʰɑo̯lʲ]	「兎」	——		

■原音素 N

上記の子音の他に，形態音韻論的交替を考慮して原音素 N を立てる。これは調音位置の素性が未指定で，音環境により調音位置が決定される鼻音である。ポーズの前では，日本語の撥音のように鼻母音ないし軟口蓋鼻音で発音される（ərgəN [ərgə̆ŋ]「男，夫」～ərgəN=min [ərgə̆mmin]「私の夫」～ərgəN=tan [ərgə̆ntʰɑn]「あなたの夫」）。これに対して，歯茎鼻音 n は後続子音の調音位置に同化することはない（wan-bəi [wɑn(ə̆)beˑ]「落ちる」）。

2.2.3　音節構造

■音節構造

音節は $(C_1)V(V)(C_2)(C_3)$ という構造をもつ（(　) は任意要素）。

C は単純子音だけでなく口蓋化子音・唇音化子音も含み，V は短母音，VV は重母音（長母音・二重母音）を表す。

■子音連続

音節末の子音連続が許される場合，C_2 には調査範囲で軟音破裂音 g，共鳴音 m, r, l および N が立ちえ，C_3 には硬音阻害音 p, t, k, č, s, š および軟音破裂音 d, g が立ちうる。ただし，C_3 に d, g が立つのは C_2 が N の場合のみである。

子音連続に関する制約については，資料不足により詳細には触れられない。ただ，注目されるのは軟音の破裂音のふるまいで，g が共鳴音と同様，硬音との同一音節内における子音連続を許すのに対して（5a），d はそれを許容しない（5b）。他の軟音阻害音の b と ǰ の分布については今後の課題としたい。

(5)	a.	/bugs/	[b̥uǧs]	(*[b̥u.ɣə̆s])	「尻」
		/ars/	[ar̥s]	(*[ɑ.rə̆s])	「皮膚」
	b.	/uds/	[u.də̆s]	(*[ud̥s])	「羽」

■最小語条件

短母音を 1 モーラ，重母音を 2 モーラ，末子音を 1 モーラとすると，音韻語は必ず 2 モーラ以上からなる。従って，最小の語の音節構造は (C)VV または (C)VC である。

---

[9] 例えば，恩和巴图 [编著]（1988: 183）によれば唇音化子音終わりの名詞語幹に属格・対格接辞 -i: が接尾する場合に異形態 -ui が現れるという（noɣui「犬の／犬を」< noɣʷ + -i:）が，X 方言では nog [nɔǧ] / nog-ii [nɔɣiː] であり，形態音韻論的にも語幹末に唇音化子音が認められない。

2.2.4　韻律

ダグール語のアクセントは，示差的な働きをもたないが，母語話者に共通するパターンとして一定の形式を有している。ダグール語の先行研究ではアクセントに関して簡単な記述にとどまっているため，ここでは特に記述の少ないピッチについて述べることにする[10]。

以下では，ピッチの卓立する部分を鋭アクセント記号 ´ で示し，観察された範囲で記述する。

■単音節語

音節構造	語例
(C)VV	gyáa「街」　móo「悪い」　dəu「弟」
(C)VC	gól「川」　mód「木」　kəN「誰」
(C)VCC	ált「金」　lárč「葉」　órt「長い」 kímč ~ kíḿč「爪」　óNč ~ óŃč「ナイフ」 dáŃg「煙」　dóŃd「中央」　myáŃg「肉」
(C)VVC	tááb「5」　dááN「戦争」　áil「村」 áúl ~ aúl「山」　máís ~ məís「氷」　xóír ~ xoír「2」
(C)VVCC	mááŃd「私たちに」

■2 音節語

音節構造	語例
(C)VCVV	anáà ~ anáá「春節」　dolóo ~ dolóó「7」　ilgáa ~ ilgáá「花」
(C)VCVC	durəb「4」　ugíN「娘」　bayíN[11]「裕福な」
(C)VCVVC	dawóór「ダグール」　gočóór「長靴」 oláaN「赤い」　xalóoN「熱い，暑い」
(C)VVCVV	məəməə「お母さん」　dəuyíi「弟の」
(C)VVCVC	dəuyín「（彼の）弟の」　kuitəN「寒い」
(C)VVCVVC	bəiyəəs「体から」
(C)VCCVV	ǰorgáa ~ ǰorgáá「6」　kakráa ~ kakráá「鶏」
(C)VCCVC	barkəN「神」　moNgəl「モンゴル」
(C)VCCVCC	učkərt「子供に」
(C)VCCVVC	tərgúúl「道」

[10] ダグール語のピッチについては，津曲（1985: 237f），恩和巴图 [编著]（1988: 149f），Tsumagari (2003: 135) に記述がある。なお，それらによれば，ピッチとストレスは独立で，ストレスは第一音節に置かれる。

[11] ba と i の間に子音 y を認めるのは，baíN となって絶対に báiN とはならない，すなわち(C)VCVC 型と同じ振る舞いをすることによる。同様の解釈は津曲（1985: 237f）に見える。

■3 音節以上の語

2 音節語とほぼ同じ要領である。語例が少ないため体系的ではないが，いくつか挙げる。

(6) dəgiiyíi「鳥の」 dolaakə́N「暖かい」 kataayáár「塩で」
ačikčáaN ~ ačikčááN「鼠」 bəiyəəsə́ə「自分の体から」 kəukərsə́l「子供たち」

恩和巴图 [编著]（1988: 150）や Tsumagari (2003: 135) によれば，ダグール語のピッチは最終音節で卓立する。X 方言も同様であるが，具体的な記述がないために詳細な比較はできない。また，X 方言へのモンゴル語変種の影響も考える必要があるが，資料不足のため明らかでない。

■外来語

調査範囲内で得られた外来語は漢語借用語のみである。漢語由来の外来語は，ダグール固有語に見られる母音調和や母音弱化には従わないが，アクセントに関しては，もとの声調を無視してダグール固有語と同様のピッチで実現する。以下に例を挙げる（ç, ẓ は漢語の捲舌音 [tʂʰ], [tʂ]（ピンインの ch, zh）を表す）。

(7) byáu「時計」 (< Ch. 表 biǎo)
xwəəçə́ə「電車」 (< Ch. 火車 huǒchē)
çəəẓán「駅」 (< Ch. 車站 chēzhàn)
biiǰiibə́n「ノート」 (< Ch. 筆記本 bǐ jì běn)

2.3 ダグール語 X 方言と諸方言との関係

X 方言は，家庭内の主な模範者（両親および兄）をもとにして形成されたものであるから，外部（モンゴル語）からの影響を排除した残りの特徴は，おおよそ家族の使用するダグール語変種に由来するとみなすことができる。

そこで，本小節では X 方言に関わるダグール語変種を明らかにするため，諸方言との音韻的特徴および語彙の比較を行う。まずはダグール語の方言について概要を述べる。

2.3.1 ダグール語の方言区分

ダグール語の方言区分については，過去に二分論，三分論もあったが，いずれも十分な資料に拠っておらず，現在ではブトハ，チチハル，ハイラル，新疆（イリ）の 4 方言を認める四分論が一般的である[12]。本稿も便宜上この四分論に従い，恩和巴图 [编著]（1988: 22–26）や丁（1994, 2006: 275）等に拠り，各方言について略述する。

[12] 方言区分に関する研究史は丁（2006: 271–275）に詳しい。

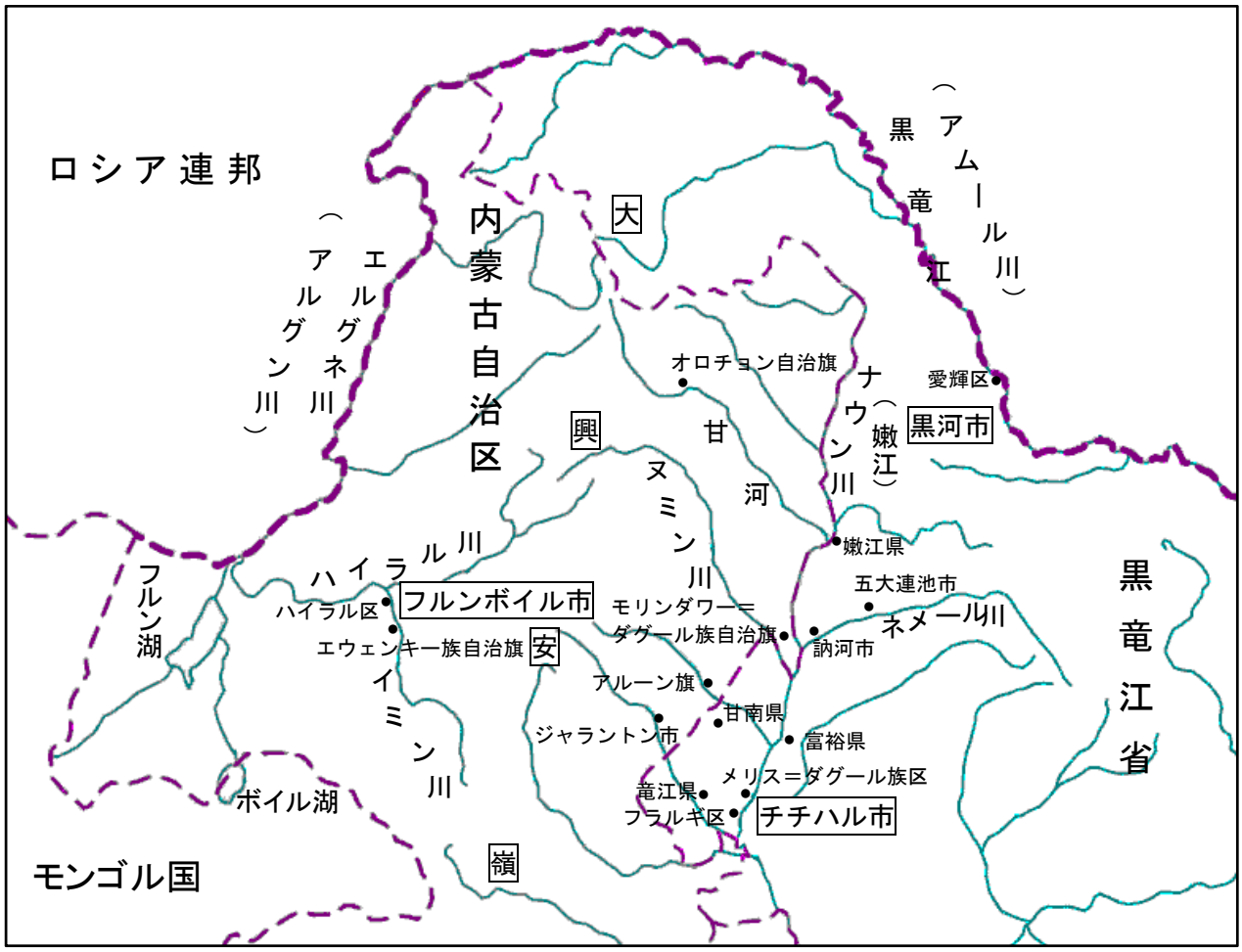

図 2　ダグール語使用地域（新疆地域を除く）

■ブトハ方言

主にナウン川（嫩江）上流域およびその支流のネメール川・ヌミン川流域等で話される方言。行政区分では内蒙古自治区フルンボイル市モリンダワー＝ダグール族自治旗・オロチョン自治旗，黒竜江省チチハル市甘南県・訥河市，黒河市五大連池市・嫩江県等に属する。ほかに，黒竜江（アムール川）沿岸の黒河市愛輝区等に話される方言も含まれる。

ナウン，ネメール，メルゲン，アイグンの 4 つの下位方言に分けられる。

ブトハ方言はダグール語の中で最も保守的で，また，満洲語からの借用語を多く残している。話者人口は約 5 万人という。

■チチハル方言

主にナウン川中流やその支流の流域にあたる黒竜江省チチハル市郊外（メリス＝ダグール族区やフラルギ区）・富裕県・竜江県，内蒙古自治区フルンボイル市ジャラントン市・アルーン旗等で話される方言。江東，江西，フラルギの 3 つの下位方言に分けられる。

チチハル地域は比較的早くから漢人の流入が盛んであったため，漢語からの影響が強い。話者人口は約 4.5 万人という。

■ハイラル方言

大興安嶺西麓のフルンボイル地域で話される方言。内蒙古自治区フルンボイル市エウェンキー族自治旗・ハイラル区に分布する。エメル＝アイル（南屯），モホルトの 2 つの下位方言に分けられる。

ハイラル方言はモンゴル語の影響が強い。話者人口は約 1.5 万人という。

■新疆方言

新疆ウイグル自治区イリ＝カザフ自治州塔城地区塔城市・霍城県，ウルムチ市等で話される方言。塔城（タルバガタイ），霍城（ホルゴス）の 2 つの下位方言に分けられる。

新疆方言はカザフ語の影響が強い。話者人口は約 0.5 万人という[13]。

2.3.2　諸方言との音韻比較

ダグール語の方言差はそれほど大きくないが，いくつかの特徴的な差異が存在する。本項では，X 方言も加えたダグール語諸方言の音韻的差異について述べる[14]。ただし新疆方言は割愛し[15]，参考のためモンゴル文語形（WMo.）とモンゴル語チャハル方言形（Ca.）を添える。各方言の語例は以下の辞書・語彙集に拠り，最低限の表記の統一を図った[16]。

ブトハ方言（Bu.）：恩和巴图 [编]（1983）《达汉小词典》
チチハル方言（Ci.）：胡和 [编]（1989）《达斡尔语汉语对照词汇》
ハイラル方言（Ha.）：津曲敏郎（1986）「ダグール語ハイラル方言基礎語彙」[17]

---

[13] 新疆のダグール人は，18 世紀に清朝によるジューンガル征討のためブトハ地域から派遣され駐防した者たちの子孫である（《达斡尔族简史》编写组 1986: 53–55 等）。

[14] ダグール語諸方言の差異については主に恩和巴图 [编著]（1988），丁（2006: 276–302, 2008）に拠った。

[15] 新疆方言の語彙については开英 [编]（1982）を，その特徴については丁（1995a, 1995b, 2006: 276–302, 2008）を参照されたい。

[16] 表記を改めた記号は次の通り。

本稿	au	č	ə	ǰ	š	x	y
恩和巴图 [编]（1983）	ao	q	e	j	x	h	y
胡和 [编]（1989）	ao	ch, q	e	zh, j	sh, x	h	y
津曲（1986）	au	č	ə	ǰ	š	x	j

このほか，胡和 [编]（1989）で前寄りの母音を表す a′, o′, u′ をそれぞれ ȧ, ȯ, u̇ で，ai, oi, ui を ȧȧ, ȯȯ, u̇u̇ で表記する。なお，同辞書では原則として非初頭音節の短母音は無表記，長母音は母音記号 1 字で表される。

[17] 津曲（1986）に記載のない語彙は Поппе (1930)（P.）により表記を簡略化して補う。

● X 方言とチチハル方言では，語幹末の i の音色（子音の口蓋化）が消失しており[18]，その代替として第一音節に a や o をもっていた語では前舌化母音 ȧ [ɛ], ȯ [œ] が生じている[19]（a）。これらの方言には i 音添加（第 3 節 (31) 参照）が見られないがチチハル方言では i 音添加に起因するような，前舌化した変異を持つ場合がある（b）。

(8)	X	Bu.	Ci.	Ha.	WMo.	Ca.	gloss
a.	tȧb	tabi	tȧb	tabi	tabi	tȧb	「50」
	mȯr	mori	mȯr	mori	mori	mȯr	「馬」
	ək	xəki	xək	əki	eki		「頭」
	bur	buri	bur	P. бypʹi	bös	bös	「布」
b.	gar	gari	gȧr ~ gar	gari	ɢar	gar	「手」
	xool	xooli	xȯȯl	xooli	qoɢulai	xoolȧȧ	「喉」

● チチハル方言では，他方言の ai, oi, ui 等に対してそれぞれ長母音 ȧȧ [ɛː], ȯȯ [œː], u̇u̇ [yː] が対応する。X 方言では，他方言の ai に対し，直後に N がある環境では ȧȧ [ɛː] が，他の子音が直後にある場合には ai [ɑe̯] が対応する（a）。また，チチハル方言では他方言の二重母音 əi に対して，長母音 ii が対応する（b）。

(9)	X	Bu.	Ci.	Ha.	WMo.	Ca.	gloss
a.	sȧȧN	sain	sȧȧn	saiŋ	sayin	sȧȧŋ	「よい」
	saikəN	saikan	sȧȧkn	saixəŋ	sayiqan	sȧȧxaŋ	「きれいな」
	kuitəN	kuitun	ku̇u̇tn	kuitəŋ	küiten	xiiteŋ	「寒冷な」
b.	məis	məis	miis	məisu	mö(l)sü[20]	mös	「氷」
	kəiN	xəin	xiin ~ xəin	kəiŋ ~ xəiŋ	kei	xii「空気」	「風」

● X 方言およびハイラル方言，チチハル方言では，1 音節の開音節語幹で，ブトハ方言の二重母音 au に対して長母音 oo が対応することが多い（Поппе 1930: 122 等，第 3 節 (23) 参照）。

(10)	X	Bu.	Ci.	Ha.	WMo.	Ca.	gloss
	soo-	sau-	soo-	soo-	saɢu-	suu-	「座る」
	ǰoo	ǰau	ǰau	ǰau	ǰaɢu	ǰuu	「100」
	dao	dau	doo ~ dau	doo	daɢu	duu	「音，声；歌」

---

[18] ただし X 方言では aly「どれ」，tauly「兎」という 2 例の例外がある。

[19] 丁（2006: 277f, 2008: 301f）によると，チチハル方言の前舌化母音には u̇ [y] も存在する（syn; Mo. söni; Ca. šön「夜」）。

[20] 中世モンゴル語漢字文献には mölsün (YM, HY, DY, etc.)，meisü (BY, etc.) という語形が見られ，ダグール語の語形は後者と合致する。なお，ブリヤート語（ホリ方言）の語形は mülɨhen であり，モンゴル祖語形は *mölisün と再構される。

● X 方言およびハイラル方言では，ブトハ・チチハル方言で軟口蓋摩擦音として保持されている語頭の*h を保存しない[21]（第 3 節 (33) 参照）。

(11)	X	Bu.	Ci.	Ha.	WMo.	Ca.	gloss
	arəb	xarab	xarb	arəbə	arba	arab	「10」
	ooN	xoon	xoon	ooŋ	on	oŋ	「年」
	wakər	xuakar	xuakr	waxərə	oqur	oxor	「短い」

● ハイラル方言およびチチハル方言では，モンゴル文語の q / k に対して，原則として摩擦音 x と破裂音 k が規則的な対応を示し，相補分布している。ブトハ方言では相補分布しておらず（第 3 節 (34) 参照）[22]，X 方言ではこれらの中間的な分布が見られる。すなわち X 方言では，語頭において a, o 等の前に立つ子音は，硬音が後続する場合に k，硬音以外が後続する場合は x であり（a），ə, u, i 等の前に立つ音は常に k である（b）。また非語頭では常に k である（c）。次表にこれら諸方言の k / x の分布を示す。

表 3　軟口蓋音 k / x の分布

<table>
<tr><th></th><th>WMo.</th><th>X</th><th>Bu.</th><th>Ci.</th><th>Ha.</th><th>Ca.</th></tr>
<tr><td rowspan="2">語頭</td><td>q（a, o, u の前）</td><td>k / x</td><td rowspan="2">k / x</td><td>x</td><td>x</td><td rowspan="4">x</td></tr>
<tr><td>k（それ以外）</td><td>k</td><td>k</td><td>k</td></tr>
<tr><td rowspan="2">非語頭</td><td>q（a, o, u の前）</td><td rowspan="2">k</td><td rowspan="2">k</td><td rowspan="2">k</td><td>x</td></tr>
<tr><td>k（それ以外）</td><td>k</td></tr>
</table>

(12)	X	Bu.	Ci.	Ha.	WMo.	Ca.	gloss
a.	kaučiN	kaučin	xaučn	xaučiŋ	qaɢučin	xuučiŋ	「古い」
	xar	xar	xar	xarə	qar·a	xar	「黒い」
b.	kuitəN	kuitun	kùùtn	kuitəŋ	küiten	xiiteŋ	「寒冷な」
	kəl	xəli	kəl	kəli	kele	xel	「舌」
c.	wakər	xuakar	xuakr	waxərə	oqur	oxor	「短い」
	ukər	xukur	xukr	ukuru	üker	üxer	「牛」

● ブトハ方言では，開口度や口唇形状の差が大きい母音の間で g が特に弱化または消失している。X 方言では，ブトハ方言形のように，g が弱化／消失した語が見られる場合がある。

---

[21] 恩和巴图 [编著]（1988: 128）によると，ブトハ方言の下位方言とされるネメール方言でも語頭の *h を保存しない。

[22] ただし，ネメール方言では全ての位置において k が対応し，x をもたない（恩和巴图 [编著] 1988: 125f）。

(13)	X	Bu.	Ci.	Ha.	WMo.	Ca.	gloss
	ǰaus	ǰaus	ǰags	ǰagusu	ǰiɢasu	ǰagas	「魚」
	dawoor	daur ~ dawur	dagur	daguuru	(daɢur)		「ダグール」
	nugwaa	nuwaa	nuga	nogwaa	noɢuɢ·a	nogoo	「野菜」
	ugiN	uyin ~ ugin	ugun	ugiŋ	ökin		「娘」

2.3.3　諸方言との語彙比較

ここでは，前項で見たような音韻的な相違とは別に，個別的な異音同義語についていくつか取り上げる。

● 「言う」を表す語

恩和巴图 [编著]（1988: 25）によれば，「言う」を表す動詞は，ダグール語の方言を明確に区別する一つの指標となりうる。X 方言の語形はハイラル方言形と一致する。

(14)	X	Bu.	Ci.	Ha.	WMo.	Ca.	gloss
	gəl-	əl-	xəl-	gəl-	kele-	xel-	「言う」

● 「青」「緑」を表す語

(15)	X	Bu.	Ci.	Ha.	WMo.	Ca.	gloss
	kuk	šilaan	šilan	kuku	köke	göx	「青」
	nasəN ~ nugwaaN	kuku	kuk	nasuŋ	noɢuɢan	nogooŋ	「緑」

X 方言の形式は，ハイラル方言あるいはモンゴル語と合致する。なお，ブトハ・チチハル方言における šilaan「青」は漢語の「細藍 xìlán」に由来し，おそらく満洲語（Ma. silan）を経由して借用されたものと思われる。また，ハイラル方言で「緑」を表す nasan は，ブトハ方言では「水色」を表す。

● 「息子，少年」「子供」を表す語

(16)	X	Bu.	Ci.	Ha.	WMo.	Ca.	gloss
	kəuk	kəku	kəkv [23]	kəukə	küü	xüü	「息子，少年」
	kəukər	kəkur	kəkur	kəukuru	keüked	xüüxed	「子供」

X 方言の語形はハイラル方言と合致する。なお，「子供」の意では učkər を頻用する。

● 「兎」を表す語

(17)	X	Bu.	Ci.	Ha.	WMo.	Ca.	gloss
	tauly	tauli	taul	taulyəi	taulai	tuulàà	「兎」

[23] 胡和 [编]（1989）の表記法では v によって先行子音の唇音化が表現されている。

X 方言の tauly はブトハ方言形と合致する。恩和巴図 [編著]（1988: 25）によるとハイラル方言の tɑule: (taulyəi) はモンゴル語からの借用である。

● 「蛇」を表す語

(18)	X	Bu.	Ci.	Ha.	WMo.	Ca.	gloss
	mog	mowo	mog	mogai	moɢai	mogȯȯ	「蛇」

X 方言形はブトハ方言形（恩和巴図 [等編] 1984 の表記によれば moɣ^{w}）やチチハル方言形と近似する。恩和巴図 [編著]（1988: 25）によるとハイラル方言の moɣɑi (mogai) はやはりモンゴル語からの借用である。

● 一人称複数排除／包括の区別

一般にダグール語では一人称複数における排除形・包括形の区別を保存しているが，モンゴル語の影響を強く受けたハイラル方言および X 方言では，両者の区別が失われている。例として各方言の主格形を挙げる（“ / ” で区切られた場合は左が排除形，右が包括形）。

(19)	X	Bu.	Ci.	Ha.	WMo.	Ca.	gloss
	baa	baa / bid	baa / bȧd	bidə	baa / bida	bid ~ bed	1PL 主格形

ただし，X 方言では baa のみを用い，ハイラル方言やモンゴル語では bid のみを用いることが注意される。

2.3.4 まとめ

2.3.2 および 2.3.3 で述べた事柄をまとめると，表 4 の如くである。

表 4　X 方言と諸方言との特徴共有関係

（○は適合，△は部分的に適合）

事項	X	Bu.	Ci.	Ha.	Ca.
(8) 語末口蓋化音消失と前舌化母音	○	—	○	—	○
(9) 二重母音 *Vi の長母音化	△	—	○	—	○
(10) 単音節語の *au > oo	○	—	○	○	○
(11) 語頭 *h の消失	○	—	—	○	○
(12) k / x の不規則的分布	△	○	—	—	—
(13) 母音間 *g の弱化／消失	△	○	—	—	—
(14) 「言う」gəl-	○	—	—	○	—
(15) 「青」kuk，「緑」nasəN / nugwaaN	○	—	—	○	○
(16) 「息子，少年」kəuk，「子供」kəukər	○	—	—	○	—
(17) 「兎」tauly	○	○	—	—	—
(18) 「蛇」mog	○	○	○	—	—
(19) 一人称複数排除／包括の区別の消失	○	—	—	○	○

このうち X 方言がチチハル方言と共有する音韻的特徴は，同時にモンゴル語とも共有される特徴であり，チチハル方言との関係を示唆するものではない。他にも，語彙がモンゴル語によって置き換えられたために，X 方言には多くのモンゴル語的特徴が見出される。例えば，

(20)	X	Bu.	Ci.	Ha.	WMo.	Ca.	gloss
a.	dolaaN	dulaan	dulan	dulaaŋ	dulaɢan	dulaaŋ	「暖かい」
	xalooN	xaluun	xalun	xalooŋ	qalaɢun	xaluuŋ	「熱い，暑い」
b.	anȧȧ	aniə	aniə	anyəi	Ma. aniya		「春節」[24]
	uňəə	uniə	uniə	unyəi	üniy·e	ünyee	「乳牛」[23]
c.	gorəb	guarab	guarb	gwarəbə	gurba	gurab	「3」
	door	duar	duar	dwarə	dour·a	door	「下」
d.	ǰorgaa	ǰirwoo	ǰirgo	ǰirgoo	ǰirɢuɢ·a	ǰurgaa	「6」
	noroo	niroo	niro	P. нʹipoo	niruɢu	nuruu	「背中」

(20a) のように [u] と [ɑ] が同一語中にほとんど共起せずに狭めの o が現れ（2.2.1，第 3 節 (21b), (24a) 参照），(20b) のように *i’a, *i’e の合流が生じておらず結果として音素 ee をもたず（第 3 節 (27c) 参照），(20c) のように円唇母音の折れが少なく（第 3 節 (22) 参照），(20d) のように *i の折れが多い（第 3 節 (28), (29) 参照）などは，いずれもダグール語諸方言の特徴とは合致しない，モンゴル語的特徴である。

さて，表 4 において，X 方言と最も特徴を共有するのはハイラル方言であり，特に X 方言における (11) および (14) ～ (16) の特徴は他方言・他言語に由来するものとは考えがたい。調査協力者の父親がハイラル方言地域の出身者であることを考慮すれば，ハイラル方言が X 方言の形成に大きく関与した可能性が高い。

しかしながら，X 方言にはブトハ方言的特徴も含まれることに注意しなければならない。特に X 方言の k / x の分布パターンを説明するには，ハイラル方言からの複雑化よりも，ブトハ方言からの簡素化と理解した方が現実的である。調査協力者の母親がブトハ方言地域の出身であり，一般に子は母親の言語の影響を受けやすいことを考慮するならば，むしろブトハ方言が X 方言の形成に大きな役割を果たしている可能性がある。

なお，今回は先行研究で述べられている方言的特徴をもとに比較したが，それとは合致しない特徴を備えた小方言が存在する可能性も否定できない[25]。実際，角道（1987）で報告

---

[24] 恩和巴图 [编]（1983）（Bu.）と胡和[编]（1989）（Ci.）においては iə が（単音節語，および複音節語の非初頭音節で）[eː] を表し，津曲（1986）（Ha.）では yəi が [eː] を表している。なお，ここに挙げた 2 つの語例の音価は，恩和巴图 [等编]（1984）によると Da. ɑneː, uɲeː であり，これらの表記ではこの 2 例における先行子音の口蓋化の有無（n か ɲ か）を書き分けられない。

[25] ただし，k / x の分布については，現在までに報告されているハイラル方言（Поппе 1930，津曲 1985, 1986，角道 1987，塩谷 1990）ではすべて，2.3.2 (12) で述べたような相補分布を原則として示すので，やはり X 方言にはハイラル以外の方言の関与を考えなければならない。

されているハイラル方言や Martin (1961) で記述されているブトハ方言などは，上で述べたような方言的特徴は満たしているものの，一部特異な音韻的特徴が見られ，また，註 21, 22 でも述べたように，ネメール方言はブトハ方言の下位方言に分類されながら，その特徴はいわゆるブトハ方言とは大きく異なっている。方言に関する更なる考究が俟たれる。

3　通時的に観たダグール語の音韻特徴

前節では，ダグール語の音韻全体の特徴について，或いはモンゴル語との差異について，十分には述べなかったので，本節で通時的な視点からダグール語の音韻的特徴を記述することにより，両者の差異を明らかにしたい[26]。モンゴル語は内蒙古の標準的方言とされるチャハル方言（主に孙竹 1985 による[27]）を用い，ダグール語は，標準的方言とされ，話者人口も最も多いブトハ方言（恩和巴图 [等编] 1984 による[28]）を用いる。また，祖形に近い形式としてモンゴル文語形（WMo.）あるいは中世モンゴル語形[29]（MMo.）を添える。

ダグール語とモンゴル語の母音体系は概略次のようである。

ダグール語
（ブトハ方言）

i　u
e　ə
o
a

モンゴル語
（チャハル方言）

i　ï　ü
(ė)　e ö　u
ȧ ȯ　o
a

(　) は長母音のみ

図 3　ダグール語・モンゴル語の母音体系

---

[26] 本節の内容は Поппе (1930) 以来の先行研究に多くを負っているが，筆者が新たに補った部分もある。煩雑を避けるため，多くの先行研究で指摘されてきた事実については出典を割愛した。筆者が参照しえた主な先行研究としては Поппе (1930)，Poppe (1934)，Poppe (1955)，Тодаева (1960)，Poppe (1964)，Namcarai & Qaserdeni (1983)，Тодаева (1986)，恩和巴图 [编著]（1988），栗林（1989a），Tsumagari (2003) が挙げられる。なお，以下に挙げる音変化には例外も存在するが，本稿の目的上，多くは割愛した。

[27] ただし表記を改める。主な変更点は次の通り。

本稿：	a	e	o	ö	u	ü	ï	i	ȧ	ȯ	ė	č	ǰ	š	y	g	y
原典：	ɑ	ə	ɔ	o	ʊ	u	ɪ	i	ɛ	œ	e	tʃ	dʒ	ʃ	j	ɡ	ʲ

[28] ただし表記を改める。主な変更点は次の通り。

本稿：	a	VV	ŋ	n	č	ǰ	š	ň	y	g	g	y	w
原典：	ɑ	V:	n / _ #	nə / _ #	ʧ	ʤ	ʃ	ɲ	j	ɣ	ɡ	ʲ	ʷ

[29] 中世モンゴル語は栗林 [編著]（2003, 2009），贾、朱风 [合辑]（1990）によって確認できる漢字諸文献に拠った。出典を各語例の (　) 内に示す。

● ダグール語では円唇母音の合流が生じ，*o, *u が o に，*ö, *ü が u になった（a）。ただし，長母音 aa が後続する場合には *u は u になった（b）[30]。

(21)	Da.	WMo.	Ca.	gloss
a.	tos	tosu	dos	「油」
	tos-	tus-	dus-	「当たる」
	xuns-	ölüs-	öls-	「飢える」
	xuns	ünesü	üns	「灰」
b.	dulaaŋ	dulaɢan	dulaaŋ	「暖かい」

● 初頭音節において，短母音 *a が後続する *u は「折れ（breaking / Brechung）」を起こして wa となった（a）[31]。一方，(24b) のように長母音 aa が後続する場合は「折れ」が阻止される。また，一部の *o も，wa となった（b）。なお，頭子音が両唇音の場合は w が現れない（c）[32]。

(22)	Da.	WMo.	Ca.	gloss
a.	want-	unta-	unt-	「眠る」
	twas	tusa	dus	「利益」
b.	dwatər	dotur·a	dotor	「内，中」
	xwakər	oqur	oxor	「短い」
c.	man	muna	mun	「アイスピック」

● 初頭音節において，中世モンゴル語の母音連続 a’u (awu), e’ü (ewü) を二重母音 au, əu として保存する（a）。ただし，頭子音が両唇音の場合は MMo. a’u (awu) は長母音 oo となった（b）。

現代モンゴル語諸方言ではこれらに全て長母音が対応する。

(23)	Da.	MMo.	Ca.	gloss
a.	aul	a’ula (YM)	uul	「山」
	dau	dawun (YM)	duu	「音，声；歌」
	əud	e’üden (HY)	üüd	「門，扉」
	dəu	de’ü (YM)	düü	「年下のきょうだい」
b.	moo	mawu (YM)	muu	「悪い」

---

[30] *ö, *ü の規則的な合流はブリヤート語東部（ホリ）方言やバルグ＝ブリヤート方言，モンゴル語ホルチン方言にも見られる。

[31] これと並行して，短母音 *e が後続するごく一部の *ü が wə となっている（Da. wəy; WMo. üy·e; Ca. üy「節」）。

[32] ダグール語における円唇母音の折れは栗林（1993）が詳しく扱っている。なお，円唇母音の折れ（*u > wa）はモンゴル語ハラチン方言にも見られる（野村 1960）。

● 非初頭音節においては，中世モンゴル語の母音連続は全て長母音となった。初頭音節に a をもつ MMo. a’u, u’u, i’u は，ダグール語では開音節で oo に，閉音節で uu に分裂した（a）。ただし，開音節でも両唇音を頭子音とする場合は uu となった（b）。また，他の母音を初頭音節にもつ場合は一律に oo になった（c）。

(24)	Da.	MMo.	Ca.	gloss
a.	adoo	adu’u (YM)	aduu「馬群」	「家畜の群れ」
	xaduur	qadu’ur (HY)	xaduur	「鎌」
b.	dawuu	cf. daba’ul- (YM)「超過する」		「優れた；かなり」
c.	niroo	niru’un (YM)	nuruu	「背中」
	šomool	šimu’ul (HY)「蠅」	šumuul	「蚊」

● 非初頭音節において，中世モンゴル語の母音連続 o’a は通例 oo になる（a）が，MMo. Coqo’a（WMo. Coɢuɢa，C は任意の子音）という音連続においては Cuwaa になる（b）。

(25)	Da.	MMo.	Ca.	gloss
a.	doloo	dolo’an (YM)	doloo	「7」
b.	tuwaa	toqo’an (HY)	togoo	「鍋」
	nuwaa	noqo’an (YM)	nogoo	「野菜」

● 中世モンゴル語の初頭の母音連続 ö’e, ö’ö は，原則として wəə となる（a）[33]が，非初頭の母音連続 ö’e, ü’e は əə になる（b）（恩和巴图 [编著] 1988: 71）。モンゴル語ではこれら全てに öö が対応する[34]。

(26)	Da.	MMo.	Ca.	gloss
a.	wəəd	ö’ede (YM)	ööd	「上へ」
	mwəər	mö’er (DY)	möör	「車輪の外縁部」
b.	gurəəs	görö’esün (YM)	göröös	「獣」
	kirəə	kirü’e (YM)	xöröö	「鋸」

● 新たな母音音素 e を生じた。短母音 e は，硬口蓋子音 *č, *ǰ, *š, *y を頭子音にもち，*i を後続させる初頭音節の *a に由来する。（a）[35]。長母音 ee は，*čai, *ǰai に由来する単音節

---

[33] 一部 uu になった例がある（Da. buus; MMo. bö’esün (YM); Ca. böös「虱」）。

[34] ダグール語において長母音 *öö が多くの場合に *üü（＞Da. uu）とは異なる変化をしたのは，短母音で *ö と *ü が合流した後も，長母音ではその区別が保たれていたことを示唆する。興味深いことに，ブリヤート語東部方言やバルグ＝ブリヤート方言では長母音でのみ öö が保持されている。

語（b）を除けば，他は非初頭音節にしか現れず，*i’a や *i’e に由来するもの（c）と，一部の*ai, *ei, *ui に由来するもの（d）等がある[36]。

(27)	Da.	WMo.	Ca.	gloss
a.	šeby	šabi	šȧb	「学生」
b.	ǰee	ǰai	ǰȧȧ	「空間；距離」
c.	taree	tariy·a	tȧrȧȧ「農作物」	「畑」
	uree	üriy·e	üryee	「3～5 歳の雄馬」
d.	balee	balai	balȧȧ「無知な」	「盲目の」

● 長母音に先行する *i が，一定の条件[37]で「折れ」を起こさずに保存される。

(28)	Da.	MMo.	Ca.	gloss
	imaa	ima’an (HY)	yamaa	「羊」
	diloo	ǰilu’a (YM)	ǰoloo	「手綱」
	xirəəl	hirü’er (YM)	yöröölˈ「祝詞」	「呪文；祝詞」

● モンゴル語において見られる，先行子音の口蓋化を伴わない折れ（prebreaking，栗林 1981 の「完全な折れ」）がダグール語では生じていない。

(29)	Da.	WMo.	Ca.	gloss
	myag	miq·a	max	「肉」
	ňos	nisu	nus	「鼻水」
	nid	nidü	nüd	「目」

● *č, *ǰ を頭子音とする初頭音節の *a は，長母音 aa が後続する（a）か鼻音＋破擦音 nč という音連続が直後にある（b）場合に，i になった。

(30)	Da.	MMo.	Ca.	gloss
a.	čigaaŋ	čaqa’an (YM)	čagaaŋ	「白い；白」
	ǰiyaa	ǰaya’an (YM)	ǰïyaa	「運命」
b.	činč	čamča (YM)	čȧmč	「単衣」
	ǰinč-	ǰanči- (YM)	ǰïnč-	「打つ」

---

[35] 一部は *a の後続する初頭音節の *i に由来する（Da. peč; WMo. biča; Ca. bïč「粉々に」）が，このような環境では *i の折れを起こすのが通例である（Da. gyad; WMo. ǰida, Ma. gida; Ca. ǰïd「槍」）。

[36] *i’a, *i’e の合流はハムニガン＝モンゴル語にも見られ，トゥングース系言語の影響が疑われる（Rybatzki 2003: 371）。

[37] 母音連続 *a’u, *u’u, *ü’e に由来する長母音が後続する *i は，頭子音が *č, *ǰ, *š の時には折れを生じる（Da. čoloo; MMo. čilawun (YM); Ca. čuluu「石」）。

● 流音終わりの一部の名詞（特に身体名称や所有物？）の語幹末に i の音色が添加される現象がある。

(31)	Da.	WMo.	Ca.	gloss
	gary	ɢar	gar	「手」
	gəry	ger	ger	「家」
	kuly	köl	xöl	「足」
	dəəly	debel	deel	「裏地のある服」

● 名詞語幹末の二重母音 *ai, *ei が消失した（a）[38]。その直前が流音の場合は，(31) の i 音添加が見られることがある（b）。

(32)		Da.	WMo.	Ca.	gloss
	a.	gag	ɢaqai	gaxȧȧ	「豚」
		mələg	melekei	melxii	「蛙」
	b.	xooly	qoɢulai	xoolȧȧ	「喉」
		bəəly	begelei	beelėė	「手袋」

● 中世モンゴル語の語頭の h を軟口蓋摩擦音 x として保存する。これは現代モンゴル語諸方言では全て失われた。

(33)	Da.	MMo.	Ca.	gloss
	xarəb	harban (YM)	arab	「10」
	xulaaŋ	hula’an (YM)	ulaaŋ	「赤い；赤」
	xič-	hiče- (YM)	ič-	「恥ずかしがる」

● 語頭の *k が破裂音 k と摩擦音 x に分化した。喻（1983: 24）の述べるように一部の語は第二音節頭が硬音 *t, *s, *č, *k の場合に k，それ以外で x となる（b）が，その条件に適さなくとも k で現れる語が多くある（b）[39]。

(34)		Da.	WMo.	Ca.	gloss
	a.	kartəs	qabtasu	gabtas	「板」
		kəkw	keüken	xüüxeŋ「娘」	「息子，少年」
		xar	qar·a	xar	「黒い；黒」
		xəd	kedü	xed	「いくつ」
	b.	kan	qan·a	xan「壁」	「窓格子」
		kur-	kür-	xür-	「至る」

[38] ただし，いきなり *Vi > Ø となったのではなく，短母音化（*Vi > V）を経た後，母音弱化と音節改変により消失したものと考えられる。この名詞語幹末二重母音の短母音化は，かなり早期に生じた。

[39] 想定される他の条件の一つとして「*i の前では k が保たれる（Da. kyand; WMo. kimda; Ca. xïmd「安い，易い」）」（ただし単音節語 Da. xii-; WMo. ki-; Ca. xii-「する」は例外）が挙げられる。

● 母音間の *k が軟音化した（a）。ただし，直前の子音が硬音の破裂・破擦音または *h の場合（b），或いは，*k を含む音節が重音節（長母音・二重母音または母音＋鼻音 N を含む音節）の場合（c）に軟音化は阻止される[40]。

(35)	Da.	WMo.	Ca.	gloss
a.	sagal	saqal	saxal	「ひげ」
	nugw	nüke	nöx	「穴」
b.	čiky	čiki	ǰix	「耳」
	kukw	köke	göx「青」	「緑色の；緑」
c.	ukaa	uqaɢ·a	uxaa	「智慧」
	wakəŋ	uqun·a	uxan	「種山羊」

● 語頭の破擦音 *č が *i の前で摩擦音 š になった（a）。ただし，第一音節が開音節で，かつ，第二音節の頭子音が硬音（b）または第二音節が重音節（c）の場合に摩擦音化は阻止される[41]。

(36)	Da.	WMo.	Ca.	gloss
a.	šar	čirai	čȧrȧȧ	「顔」
	šurkul	čidkür	ǰötxör	「鬼」
b.	čos	čisu	ǰus	「血」
c.	činəə	činege	činee	「能力，力量」

● 一部の音節末子音 *b, *d, *g, *s が r になった（a）。この r 音化はダグール語特有の現象で，「ダグール・ロータシズム（Dagur rhotacism）」と呼ばれる（Tsumagari 2003: 133）。*s の r 音化は，直後の軟音の硬音化を伴う（b）。また，r 音化の結果，同一語幹内に r が重出する場合は，異化によって多くの場合後方の r が l になった（c）。

(37)	Da.	WMo.	Ca.	gloss
a.	torč	tobči	dobč	「ボタン」
	kəkur	keüked	xüüxed	「子供」
	art	aɢta	agt	「去勢馬」
b.	aurky	aɢusgi	uušig	「肺」
	xərk-	esge-	eseg-	「切る」
c.	šurkul	čidkür	ǰötxör	「鬼」
	čərəl	čerig	čireg「兵，軍」	「兵役」

[40] ちなみに (35b) からわかるように，チャハル方言では第二音節頭が硬音の場合に，語頭の硬音が軟音化する（栗林 1989b: 1429）。この軟音化の条件は，ダグール語の軟音化の条件とは対照的で興味深い。また，チャハル方言の軟音化は当該音節が重音節（長母音・二重母音，母音＋鼻音を含む音節）の場合に阻止されるが，こちらはダグール語の軟音化の阻止条件と類似する。

[41] 破擦音の摩擦音化はブリヤート語やモンゴル語ホルチン方言にも見られる。

● 散発的な脱鼻音化・鼻音化が見られ，語頭や語末で n が l に（a），語中で l が n に（b）なることがある。

(38)	Da.	WMo.	Ca.	gloss
a.	larč	nabči	nábč	「葉」
	əməl	emün·e	ömön	「前，南」
b.	minaa	milaɢ·a		「鞭」

4　おわりに

本稿では，フフホトという非ダグール語地域においてモンゴル語の影響を受けたダグール語の変種「X 方言」の音韻について記述した。X 方言とダグール語諸方言との比較からは，X 方言の形成にブトハ方言とハイラル方言が関与した可能性が高いことが示された。また，X 方言にはモンゴル語の影響が色濃く観察されたので，何がダグール語の特徴なのかを明らかにする必要から，モンゴル語との差異についても通時的側面から記述した。

第 2 節で記述した X 方言については，データ不足から母音調和や子音連続の制約などの重要な特徴について述べられなかった。音韻論的解釈も部分的であり，表記は仮表記の段階である。また，今回の調査は簡単な語彙調査であったため，文法事項についてはほとんど確認できなかった。今後の課題である。

最後に，本稿執筆の機会と有用なコメントをくださった言語記述研究会の皆様，特に本稿の内容について多くのご助言をくださった稲垣和也氏に感謝申し上げる。

附録　調査語彙一覧

今回の調査で得られた語彙を，本文中で用いた辞書・語彙集（表記は本文中に述べた原則により改変）に記載された各方言形とともに示す。本文同様，ハイラル方言についてはПоппе (1930) により欠を補ったが，ブトハ方言についても那順达来 [编著]（2001）（一部表記を変更）により補った。なお，対応する各方言形や文語形は，意味よりも語形を優先させたため，X 方言とは意味のずれが生じている場合がある。表中の〔古〕は古い表現であまり使用しないものを指す。

配列順：a, ȧ, b, č, ç, d, ə, g, i, ǰ, k, l, m, n, ň, N, o, ȯ, p, r, s, š, t, u, w, x, y, ẓ

№	X 方言	gloss	Bu.	Ci.	Ha.	WMo.	Ca.
001	aa-	(家に)居る	aa-	aa-	aa-	a-	
002	ačikčaaN	鼠，(十二支の)子	ačikčaan ~ aškaa	ačkča	ačixičaaŋ		
003	ag	(自分の)兄	ag	ag	agə	aq·a	ax
004	ail	村	ail	ȧȧl	ailə	ayil	ȧȧl
005	aiš	助けになるもの	aiš	ȧȧš	cf. aišilə-	Ma. aisi	
006	aiš tos	ためになるもの	aiš tuas	ȧȧš tuas			
007	akaa	お兄さん	akaa	aka	axaa		
008	al-	殺す	al-	al-	alə-	ala-	al-
009	alt	金	alt	alt	altə	alta	alt
010	aly ~ aliN	どれ	N. ali	al	alini	ali	ȧl
011	am	口	am	am	amə	ama	am
012	anȧȧ	春節	aniə	aniə	anyəi	Ma. aniya	
013	arəb	10	xarab	xarb	arəbə	arba	arab
014	arig	酒	argi	ȧrg	arigi	ariki	ȧrax
015	ars	皮	ars	ars	arsə	arasu	ars
016	ašig	利益				asiɢ	ašig
017	aul	山	aul	aul	aulə	aɢula	uul
018	aur[1]	大気，空気	aur	aur	auru	aɢur	uur
019	aur[2]	怒り	aur	aur	auru	aɢur	uur
020	baa[1]	(1PL 主格)	baa / bid	baa / bȧd	bidə	ba / bida	bid ~ bed
021	baa[2]	お父さん		baa, baaba	baawaa	Ch. 爸?	
022	bagš	先生	bakš	(səb)	bagši	baɢsi	bagš
023	bait	事	bait	bȧȧt	baitə	Ma. baita	
024	baləg	土	balag	balg	baləgə		
025	baňgil-	感謝する	banigal-			Ma. banihala-	
026	baraaN	多い	baraan	baran	baraaŋ		
027	barkəN	神	barkan	barkn	barxuŋ	burqan	burxaŋ
028	barooN	右，西	baran	barn	barəŋ	baraɢun	baruuŋ
029	bayiN	裕福な	bayin	bayn	bayiŋ	bayan	bayiŋ
030	bəəd	外側	bəəd	bəəd	bəədə		
031	bəi[1]	ある，いる	bəi	bii	bəi	bui	bii
032	bəi[2]	体；～の方，側	bəy	bəy	bəji	bey·e	bey
033	bii	(1SG 主格)	bii	bii	bii	bi	bii
034	biiǰiibən	ノート				Ch. 筆記本	

035	bitəg	本	bitəg	bitg	bitəgə	Ma. bithe	
036	bod-[1]	思う, 考える	bod-	bod-	bodə-	bodu-	bod-
037	bod-[2]	染める	bod-	bod-	bodə-	budu-	bud-
038	bodaa ~ badaa ~budaa	御飯, 食事	budaa ~ badaa	bada	budaa ~ badaa	budaɢ·a	budaa
039	bok	種牛	bag	bak		buq·a	bux
040	bugs	尻	burs	burs	bugsu	bögse	bögs
041	buləN	温かい	bulun	bulun	bələəkuŋ	büliyen	büleeŋ
042	bulk	鏡	bulku	bilkv	bulku	Ma. buleku	
043	bun	明日	buni ~ boni	bun’	buni		
044	bun ərt	翌朝					
045	bun udər	明日	buni udur ~ bunidur	bun’ udr	buni udurə		
046	buNtər	尻	burtur				
047	bur	布	buri	bur	P. бур′i	bös	bös
048	bus	帯(細長い布)	bəs	bəs	P. бєсє ~ бус	büse	büs
049	buu	(禁止の前置小詞)	buu	bu	P. бyy	buu	büü
050	byau	時計	biau	biau		Ch. 表	
051	čaaǰ	明後日	čaaǰ	čaaǰ	čaaǰi	čaɢa—	
052	čaas	紙	čaas	čaas	čaasu	čaɢasu	čaas
053	čagaaN	白い; 白	čigaan	čigan	čigaaŋ	čaɢan	čagaaŋ
054	čas	雪	čas	čas	časə	času	ǰas
055	čää	茶	čiəə	čiää ~ čiə	čəi	čai	čää
056	čik	耳	čiki	čik	čiki	čiki	ǰix
057	čirəg	兵士, 軍隊	čərəl	čirl		čerig	čireg
058	čoloo	石	čoloo	čolo	čoloo	čilaɢu	čuluu
059	čos	血	čos	čos	čosə	čisu	ǰus
060	çəəẓan	駅				Ch. 車站	
061	dal	70	dal	dal	dalə	dala	dal
062	dalii ~ dalai	海	dalii	dali	dalai	dalai	dalää
063	daNg	煙草	danga	dang	daŋgə	damaɢ·a	damag
064	dau	音	dau	doo ~ dau	doo	daɢu	duu
065	dawoor	ダグール	daur ~ dawur	dagur	daguuru	daɢur	
066	dääN	戦争	dayin	dään	dayiŋ	dayin	dääŋ
067	dəər	上	dəər	dəər	dəərə	deger·e	deer
068	dəgii	鳥	dəgii	dəgi	dəgii	So. degii	
069	dəu	年下のきょうだい	dəu	dəu	dou	degüü	düü
070	dolaakəN ~ dolaaN	暖かい	dulaan	dulan, dulakn	dulaaŋ ~ dulaaxuŋ	dulaɢan	dulaaŋ
071	doloo	7	doloo	dolo	doloo	doluɢ·a	doloo
072	doNd ~ dwaNd	真ん中	duand	dond	dwandə	dumda	dund
073	doNd gurəN	中国	duand gurun	dondi gurn			
074	door	下	duar	duar	dwarə	dour·a	door
075	dotər ~ dwatər	内側	duatar	dotr	dwatərə	dotur·a	dotor
076	duč	40	duč	duč	duči	döči	döč
077	durəb	4	durub	durb	durubə	dörbe	döröb
078	dwar	好み, 願望	duar	dor	cf. dwarələ-	dur·a	dur
079	əčig	(自分の)父	əčig	əčg	əčigə	ečige	ečig
080	ədəə	今, 現在	ədəə	ədə	ədəə	edüge	

081	əg	(自分の)母	əg	əg	əgə	eke	ex
082	əi	このように	əi	ii ~ əii	P. єji	eyin	iim
083	əimər	このような	əimər	iimr	əimərə	eyimü	iim
084	ək	頭,	xəki	xək	əki	eki	
		脳	owo	ob	ogu		
085	əm	薬	əm	əm	əmə	em	em
086	əməl ~ əmən	前, 南	əməl	əml	əmunə	emun·e	ömön
087	əmgəN	女, 妻	əmwun	əmgun	əmguŋ	eme—	
088	ən	これ, この	ənə	ən'	ənə	ene	en
089	ən udər	今日	ənə udur	ənudr ~ ən' udr	ənə uduru	ene edür	önöödör
090	əNd	ここ	ənd	ənd	əndə	ende	end
091	ər	(立派な)男	ər	ər	ərə	er·e	er
092	ərčuu	胸(上半身)	ərčuu	ərču	ərčuu	ebčigüü	öbčüü
093	ərgəN	男, 夫	ərwun	ərgun	ərguŋ	ere—	
094	əriN	季節	ərin	ərn	əriŋ	Ma. erin	
095	ərt	朝;朝早い	ərd	ərt	ərtə	erte	ert
096	əud	扉, 門	əud	əud	əudə	egüde	üüd
	əug → wəəg						
097	əul[1]	雲	əulən	əuln	əuləŋ	egüle	üül
098	əul[2]	冬	uwul	ugul	ugulu	ebül	öböl
099	əuləN	曇っている	əulən	əuln	əuləŋ	egüle	üül
100	əur	病気	əur	əwr	əurə	*ebed	
101	əus	草	əus	əus	əusu	ebesü	öbs
102	gag	豚, (十二支の)亥	gag	gag	gagə	ɢaqai	gaxȧȧ
103	gaǰir	地, ところ	gaǰir	gaǰr	gaǰirə	ɢaǰar	gaǰir
104	gal	火	gali	gal	gali	ɢal	gal
105	gar	手	gari	gȧr ~ gar	gari	ɢar	gar
106	gar-	出る, 上る, (日が)昇る	gar-	gar-	garə-	ɢar-	gar-
107	gəl-	言う	əl-	xəl-, əl-	gələ-	kele-	xel-
108	gər	家	gəri	gər	gəri	ger	ger
109	goč	30	goč	goč	goči	ɢuči	guč
110	gočoor	長靴	gočoor	gočor ~ gočr		ɢutul	gutal
111	gol	(中規模の)川	N. gol	gol	golu	ɢoul	gol
112	gorəb	3	guarab	guarb	gwarəbə	ɢurba	gurab
113	gurəN	国	gurun	gurn	guruŋ	Ma. gurun	
114	guu	ガラス	guu	guu	guu	Ma. gu	
115	gyaa	街	giaa	giaa	gyaa	Ma. giyai < Ch. 街	
116	id-	食べる	id-	id-	idə-	ide-	id-
117	idəə ǰak	食べ物	idəə	idə	P. iдєє	idege	idee
118	idəš	保存食	idəš	idš	idiši	idesi	ideš
119	ig	大きい	xig	šig	igə	yeke	ix
120	ilgaa	花	ilgaa	ilga	ilgaa	Ma. ilha	
121	ir	90	yər	yir	yurə	yere	ir
122	is	9	is	yis	yusu	yisü	is
123	ǰak	もの	ǰak	ǰak	ǰaxə	Ma. ǰaka	
124	ǰaN	借金	ǰan	ǰan		Ch. 賬	
125	ǰar	60	ǰar	ǰar	ǰarə	ǰira	ǰïr
126	ǰaus	魚	ǰaus	ǰags	ǰagusu	ǰiɢasu	ǰagas

127	ǰəəǰəə	お姉さん		ǰiəǰiə	ǰəəǰəə	Ch. 姐姐	
128	ǰigaa	お金	ǰigaa	ǰiga	ǰigaa	Ma. ǰiha	
129	ǰiguur	翼				ǰigür	
130	ǰoo	100	ǰau	ǰau	ǰau	ǰaɢu	ǰuu
131	ǰorgaa	6	ǰirwoo	ǰirgo	ǰirgoo	ǰirɢuɢ·a	ǰurgaa
132	ǰurəg	心臓	ǰurwu	ǰurg	ǰurugu	ǰirüke	ǰürx
133	ǰus	色, 顔つき	ǰus	ǰus	ǰusu	ǰisü	ǰüs
134	ǰuuN	左, 東	(solwoi)	(solgi)	ǰuŋ	ǰigün	ǰüüŋ
135	kakraa	鶏, (十二支の)酉	kakraa	xakra	xaxraa		
136	kartəs	板〔古〕→ muubas	kartas	xarts	xartəsu	qabtasu	gabtas
137	kasoo	鉄	kasoo	xaso	xasoo	Kt. xašuu? (LS)	
138	kataa	塩	kataa	xata ~ kata	xataa		
139	kaučiN	古い	kaučin	xaučn	xaučiŋ	qaɢučin	xuučiŋ
140	kəčig	一昨日	kəčig	kəčg	kəčigu		
141	kəiN	風	xəin	xiin ~ xəin	kəiŋ ~ xəiŋ	kei	xii
142	kəǰəə	いつ	xəǰəə	kəǰə	kəǰəə	keǰiy·e	xeǰee
143	kəl	舌, 言葉	xəli	kəl	kəli	kele	xel
144	kəN	誰	xən	kən	kəŋ	ken	xeŋ
145	kər	どのように	xər	kər	P. кєрдєє	ker	xer
146	kərgəN	文字	xərgən	xərgn	kərəguŋ	Ma. hergen	
147	kərǰəə	畑	kərǰəə	kərǰə			
148	kəuk	息子, 男の子	kəku	kəkv	kəukə	keüken	xüüxeŋ
149	kəukər	子供	kəkur	kəkur	kəukuru	keüked	xüüxed
150	kii-	する	xii-	kii-	kii-	ki-	xii-
151	kimč	爪	kimč	kimč	kimči	kimusu	xums
152	kuitəN	冷たい, 寒い	kuitun	kùùtn	kuitəŋ	küiten	xiiteŋ
153	kuk	青い;青	kuku	kuk	kuku	köke	göx
154	kul	足	kuli	kul	kuli	köl	xöl
155	kuls	汗	xuls	xuns	kulsu	kölüsü	xöls
156	kurt	車輪	kurd	kurs	kurdə	kürdü	xürd
157	kuu	人	xuu	kuu	kuu	kümün	xüŋ
158	kwəəs	膨らんだもの	xuəs	kuəs	kwəəsu ~ wəəsu	kögesü	xöös
159	larč	葉	larč	larč	larči	nabči	nȧbč
160	məə	お母さん	məə	məə		Ch. 媽?	
161	məəməə	(相手の)お母さん	məəməə	məəmə	məəməə	Ch. 媽媽?	
162	məis	氷	məis	miis	məisu	mö(l)sü	mös
163	mod	木	mood	mood	moodə	modu	mod
164	mog	蛇, (十二支の)巳	mowo	mog	mogai	moɢai	mogȯȯ
165	moňoo	猿, (十二支の)申	monio	monio	monyoo	Ma. monio	
166	moNgəl	モンゴル	mongol	mongl		mongɢul	moŋgol
167	moo	悪い	moo	moo	moo	maɢu	muu
168	mȯr	馬, (十二支の)午	mori	mȯr	mori	mori	mȯr
169	mudər	竜, (十二支の)辰	mudur	mudur	P. мудур	Ma. muduri	
170	muNg	銀	mungu ~ mengu	mung	muŋgu	mönggü	möŋg
171	muubas	板				Ch. 木板	
172	myag	肉	miag	miag	myagə	miq·a	max
173	myaNg	1000	mianga	miang	myaŋgə	mingɢ·a	mïŋg

174	naaǰil yəəyəə	外祖父	naaǰil yəəyəə	(naaǰli utač)	P. нааɥ′іл′		
175	naim	8	naim	nȧȧm	naimə	naima	nȧȧm
176	naǰir	夏	naǰir	naǰr	naǰirə	MMo. naǰir (BY)	
177	namər	秋	namar	namr	namərə	namur	namar
178	nar	太陽	nar	nar	narə	nara	nar
179	nasəN	緑色の;緑	nasan		nasuŋ	nasun	
180	nay	80	nay	nay	nayi	naya	nay
181	nəg	1	nək	nək	nəkə	nige	neg
182	nog	犬,(十二支の)戌	nowu	nog	nogu	noqai	noxȯȯ
183	noir	眠り	noir	niər	noyiru	noyir	nȯȯr
184	nooN	男の子	noon	noon	nooŋ	nuɢun	
185	nooN dəu	弟					
186	noroo	背中	niroo	niro	P. н′іроо	niruɢu	nuruu
187	nugwaa ~ nogwaa	野菜	nuwaa	nuga	nugwaa	noɢuɢ·a	nogoo
188	nugwaaN	緑色の				noɢuɢan	nogooŋ
189	nuxər	配偶者	nuwur	nugur	nuxuru	nökür	nöxör
190	ňadəm	顔, 顔面	niadam	niadm ~ nȧdm	nyadəmə		
191	ňakəN	漢	niakan	niakn		Ma. nikan < Ch. 你漢	
192	ňakəN kərgəN	漢字	(niakan bitəg)				
193	ňid	目	nid	nid	nidə	nidü	nüd
194	ňid-ii guu	眼鏡	nidəi guu	nidi guu			
195	ňolməs	涙	niombos	nioms	nyombusə	nilmusu	nȯlmos
196	ňos	鼻水	nios	nios	nyosə	nisu	nus
197	od	星	xod	xod	odə	odu	od
198	oir ~ wair	近い	wair	wȧȧr	wairə(xəŋ)	oyir·a	ȯȯr
199	oǰoor	根源, 源	xoǰoor	xoǰor	oǰoorə	MMo. huǰa'ur (YM)	
200	olaaN	赤い;赤	xulaan	xulan	ulaaŋ	ulaɢan	ulaaŋ
201	olər	人々	olor	olr ~ oll	P. олор	ulus	uls
202	oNbəl	孫	omol	oml	omələ	Ma. omolo	
203	oNč	ナイフ	onč	onč	onči	MMo. onuči (YM)	
204	oo-	飲む	oo-	woo-	oo-	uuɢu-	uu-
205	ooN	(暦の)年	xoon	xoon	ooŋ	on	oŋ
206	orȧȧ[1]	夕方, 晩, 夜	oriə	oriə	oryəi	orui	ȯrȯȯ
207	orȧȧ[2]	頂上	xor	xor	oru	orui	ȯrȯȯ
208	orool	唇	xorol	xorl	orulə	uruɢul	uruul
209	ort	長い	ort	ort	ortə	urtu	urt
210	os	水	os	os	osu	usu	us
211	otaa	煙	(xoni)		utaa	utuɢ·a	utaa
212	saikəN	きれいな, 良い	saikan	sȧȧkn	saixəŋ	sayiqan	sȧȧxaŋ
213	sanaa	思い, 気持ち	sanaa	sana	sanaa	sanaɢ·a	sanaa
214	sanaa-tii	…したい			sanaatyəi	—-tai	—-tȧȧ
215	sar	(天体の)月,	saruul	sarol	saruulu	saraɢul	saruul
		(暦の)月	sar	sar	sarə	sar·a	sar
216	sarp	箸	sarp	sarp	P. сарпа	sabq·a	sabx
217	sȧȧN	良い	sain	sȧȧn	saiŋ	sayin	sȧȧŋ
218	sȧb	靴	sabi	sȧb	sabi	Ma. sabu	

219	səul	尻尾	səuli	səul	səulə	segül	süül
220	soo-	座る	sau-	soo-	soo-	saɢu-	suu-
221	sorəb	杖	sorbi	sȯrb	P. copwi	MMo. sorbi (HY)	
222	sorəgč	学生	(šiəbi)	sorgč	sorəgči	surugči	suragč
223	suk	斧	suwu	sug		süke	süx
224	sun	夜中	suni	sun’	suni	söni	sön ~ šön
225	šadəl	力，能力	šadal	šadl	šadələ	čidal	šadal
226	šar[1]	黄色い；黄色	šar	šiar	šarə	sir·a	šar
227	šar[2]	顔色，顔つき	šar	šar	šarə	čirai	čȧrȧȧ
228	šar-ii ǰus	顔色	šarəi ǰus				
229	šaur	泥	šaur	šawr	P. шawap	sibar	šabar
230	šȧb	学生〔古〕→ sorəgč	šiəbi	šiȧb		Ma. šabi	šȧb
231	šid	歯	šid	šid	šidə	sidü	šüd
232	šii	（二人称親称主格）	šii	šii	šii	či	čii
233	šiNkəN	新しい	šinkən	šinkn	šiŋkəŋ	sineken	šinxeŋ
234	šuətaN	学校	N. šuətang ~ šuitan	(taškv, sorgol)	šuitaaŋ	Ch. 学堂	
235	šutkər ~ šurkəl	鬼	šurkul	šutkur		čidkür	ǰötxör
236	taa	（二人称尊称主格）	taa	taa	taa	ta	taa
237	taab	5	taawu	taaw	taawu	tabu	tab
238	taitii	祖母	taitii	taiti	taitii	Ch. 太太	
239	tasəg	虎，（十二支の）寅	tasag	(bar)	P. тасах ~ тасха	Ma. tasha	
240	tauly	兎，（十二支の）卯	tauli	taul	taulyəi	taulai	tuulȧȧ
241	tȧb	50	tabi	tȧb	tabi	tabi	tȧb
242	təNd	そこ	tənd	tənd	təndə	tende	tend
243	təNgər	天	təngər	təngr	təŋgiri	tngri	teŋger
244	təNgər daul-	雷が鳴る	daul-	(xondl dood-)	(təŋgiri doogərə-)	daɢul-	duul-
245	tər	それ	tər	tər	tərə	tere	ter
246	tərəg	車	tərəg	tərg	tərəgə	terge	tereg
247	tərguul	道	tərwul	tərgul	tərguulu	MMo. terge’ür (YM)	
248	tii	そのように	tii	tii		teyin	tiim
249	tiimər	そのような	tiimər	tiimr	tiimərə ~ tiimu	teyimü	tiim
250	tikkəs	釘	tibkəəs	tiwkəs ~ tibks	P. тібкєєс	So. tibkesün ~ tikkesün	
251	torč	ボタン	torč	torč		tobči	dobč
252	tos[1]	油	tos	tos	tosə	tosu	dos
253	tos[2] ~ twas	効果，ためになるもの	tuas	tuas	cf. twasələ-	tusa	dus
254	tos-	当たる	tos-	tos-		tus-	dus-
255	tum	10000	tum	tum	tumu	tüme	töm
256	twaarəl	埃	tuaaral	tuaarl	twaarələ	toruɢ	
257	učkəN	小さい	uškən ~ učiikən	ičkn ~ ičikn	učiikəŋ	öčügüken	
258	učkər	子供	učiikər ~ uškər	ičkr	učiikuru	öčügüked	
259	udər	日，昼	udur	udr	uduru	edür	ödör
260	udəs	羽	xudus	xuts	udusu	ödü—	öd

261	udiš	昨日	udiš	udš	udiši (uduru)	üdesi	üdeš
262	ug-	死ぬ	uwu-	ug-	ugu-	ükü-	üx-
263	ugiN	娘, 女の子	ugin ~ uyin	ugun	ugiŋ	ökin	
264	ugiN dəu	妹	ugin dəu	ugun dəu	ugiŋ dou		
265	ugir	娘(PL)			ugiru	ökid	
266	ukər	牛, (十二支の)丑	xukur	xukr	ukuru	üker	üxer
267	ul	(否定の前置小詞)	ul	ul	P. ул	ülü	
268	uňəə	乳牛	uniə	uniə	unyəi	üniy·e	ünyee
269	uNdəg	卵	ənduwu	undg	əndugu	öndege	öndög
270	uNdəs	根	undus	unts	undusu	ündüsü	ündes
271	ur[1]	種	xur	xur	uru	ür·e	ür
272	ur[2]	借金	ur	ur		öri	ör
273	us	毛	xus	xus	usu	üsü	üs
274	usəg	文字, 言葉	usuwu	usg ~ xusg	usugu	üsüg	üseg
275	waa-	洗う	waa-	uga-	uwaa-	uɢa-	ugaa-
276	wakər	短い	xuakar	xuakr	waxərə	oqur	oxor
277	wal	底	wal	wal	P. woaлa	ula	ul
278	wan-	落ちる, (日が)沈む	wana-	wan'-	wanə-	una-	un-
279	waNt-	眠る, 寝る	want-	want-	wantə-	unta-	unt-
280	war-	入る	war-	war-	warə-	oru-	or-
281	warkəl	服	warkal	warkl	warxələ		
282	wəəg ~ əug	脂肪	əuwu	əug	əugə	ögekü	öox
283	wəi	関節	wəy	uy	P. wɛjɛ	üy·e	üy
284	wəil	労働	wəil	wəil	uilə	üile	üil
285	xaan	どこ	xaana	xaan'	xaanə	qamiɢ·a	xaa
286	xalooN	熱い, 暑い	xaluun	xalun	xalooŋ	qalaɢun	xaluuŋ
287	xamər	鼻	xamar	xamr	xamurə	qamar	xamar
288	xar	黒い;黒	xar	xar	xarə	qar·a	xar
289	xaur	春	xaur	xawr	xaurə	qabur	xabar
290	xoir	2	xoir	xoyr	xojirə	qoyar	xoyir
291	xol	遠い	xol	xol	xolə	qola	xol
292	xool	喉	xooli	xȯȯl	xooli	qoɢulai	xoolȧȧ
293	xorəg[1]	虫	xorwo	xorg	xorugu	qoruqai	gorxȯȯ
294	xorəg[2]	(小さい)川	xuarag	xȧrg	P. rop'кi	ɢoruq·a ~ ɢoriq·a	
295	xot ~ kot ~ kotəN	街, 都市	koton	xotn	xotuŋ	qotu	got
296	xȯn	羊, (十二支の)未	xoni	xȯn'	xoni	qoni	xȯn
297	xȯr	20	xori	xȯr	xori	qori	xȯr
298	xwain	後ろ, 北	xuaina	xuain'	xwainə	qoyin·a	xȯȯn
299	xwar	雨	xuar	xuar	xwarə	qur·a	
300	xwəəçəə	電車, 鉄道	xoočəə	xoočo		Ch. 火車	
301	yamər	どのような, 何の	yamar		yamərə	yamar	yamar
302	yamaa ~ imaa	山羊	imaa	(nima)		imaɢ·a	yamaa
303	yas	骨	yas	yas	yasə	yasu	yas
304	yau-	行く, 歩く	yau-	yaw-	yau-	yabu-	yab-
305	yəə	(疑問の文末助詞)	yəə	yə		(y)uu[2]	(y)uu[2]
306	yəəyəə	(父方の)祖父	yəəyəə	yəəyə	yəəyəə	Ch. 爺爺	
307	yoo	何	yoo	yuo	yoo	yaɢu	yuu

略号

〈言語・方言〉

Bu.　ダグール語ブトハ方言
Ca.　モンゴル語チャハル方言
Ch.　漢語
Ci.　ダグール語チチハル方言
Da.　ダグール語
Ha.　ダグール語ハイラル方言
Kt.　契丹語
Ma.　満洲文語
MMo.　中世モンゴル語
N.　那顺达来 [编著]（2001）のブトハ方言
P.　Поппе (1930) のハイラル方言
So.　ソロン＝エウェンキー語
WMo.　モンゴル文語

〈文献〉

BY　「北虜訳語」（『登壇必究』所収）
DY　「韃靼館訳語」（『華夷訳語』（丙種本）所収）
HY　『華夷訳語』（甲種本）
LS　『遼史』
YM　『元朝秘史』

参考文献

〈中文〉

《达斡尔族简史》编写组（1986）《达斡尔族简史》呼和浩特：内蒙古人民出版社.

丁石庆（1994）《达斡尔语方言成因试析》《齐齐哈尔师范学院学报》1994 年第 3 期, 73–76, 82.

————（1995a）《新疆达斡尔语语音及其特点》《语言与翻译》1995 年第 1 期, 61–68.

————（1995b）《新疆达斡尔语简述》《语言研究》1995 年第 1 期, 188–195.

————（2006）《双语族群语言文化的调适与重构——达斡尔族个案研究》北京：中央民族大学出版社.

————（2008）《达斡尔语简志 方言》《中国少数民族语言简志丛书 第 6 卷（修订本）》pp. 301–313（仲 1982 的增补部分）.

恩和巴图（1996）《19 世纪达斡尔人使用的文字》《内蒙古大学学报（哲学社会科学版）》1996 年第 6 期，82–87.

恩和巴图 [编]（1983）《达汉小词典》呼和浩特：内蒙古人民出版社（载《达斡尔资料集 6》（《达斡尔资料集》编辑委员会 [编]，北京：民族出版社，2005 年））.

恩和巴图 [编著]、新特克 [校阅]（1988）《达斡尔语和蒙古语》（蒙古语族语言方言研究丛书 004）呼和浩特：内蒙古人民出版社（Engkebatu [nayiraɢulun ǰokiyaba], Sinedke [kinan üǰebe] (1988) *Daɢur kele ba monɢɢul kele* (Monɢɢul törül-ün kele ayalɢun-u sudulul-un čuburil 004). Köke-qota: Öbür monɢɢul-un arad-un keblel-ün qoriy·a.）.

恩和巴图 [等编]（1984）《达斡尔语词汇》（蒙古语族语言方言研究丛书 005）呼和浩特：内蒙古人民出版社（Engkebatu [nar nayiraɢulba] (1984) *Daɢur kelen-ü üges* (Monɢɢul törül-ün kele ayalɢun-u sudulul-un čuburil 005). Köke-qota: Öbür monɢɢul-un arad-un keblel-ün qoriy·a.）（载《达斡尔资料集 4》（《达斡尔资料集》编辑委员会[编]，北京：民族出版社，2003 年））.

胡和 [编]（1989）《达斡尔语汉语对照词汇》齐齐哈尔：黑龙江省民族研究所、黑龙江省达斡尔学会（载《达斡尔资料集 6》）.

贾敬颜、朱风 [合辑]（1990）《蒙古译语女真译语汇编》天津：天津古籍出版社.

开英 [编]（1982）《达斡尔、哈萨克、汉语对照词典》乌鲁木齐：新疆人民出版社（载《达斡尔资料集 6》）.

那顺达来 [编著]（2001）《汉达词典》呼和浩特：内蒙古大学出版社（载《达斡尔资料集 6》）.

孙竹（1985）《察哈尔方音研究》《蒙古语文集》（西宁：青海人民出版社）pp. 34–321.

喻世长（1983）《论蒙古语族的形成和发展》北京：民族出版社.

仲素纯 [编著]（1982）《达斡尔语简志》（中国少数民族语言简志丛书）北京：民族出版社（2008 年修订，《中国少数民族语言简志丛书 第 6 卷（修订本）》（国家民委《民族问题五种丛书》之四）（孙宏开 [主编]、《中国少数民族语言简志丛书》修订本编委会[编著]，北京：民族出版社）pp. 247–320）.

〈英文〉

Martin, Samuel E. (1961) *Dagur Mongolian Grammar, Texts, and Lexicon: Based on the Speech of Peter Onon* (Indiana University Publications, Uralic and Altaic Series Vol. 4). Bloomington: Indiana University. (Reprinted by Richmond: Curzon, 1997)

Poppe, Nicholas. (1955[1] 1987[2]) *Introduction to Mongolian Comparative Studies* (Suomalais-ugrilaisen Seuran Toimituksia 110). Helsinki: Suomalais-ugrilainen Seura.

Rybatzki, Volker. (2003) “Intra-Mongolic Taxonomy”. *The Mongolic Languages* (Routledge Language Family Series 5). Juha Janhunen, ed. London; New York: Routledge. pp. 364–390.

Tsumagari, Toshiro. (2003) “Dagur”. *The Mongolic Languages*. pp. 129–153.

〈独文〉

Poppe, Nikolaus. (1934) “Über die Sprache der Daguren”. *Asia Major* 10. 1–32, 183–220.

————. (1964) “Die dagurische Sprache”. *Mongolistik* (Handbuch der Orientalistik 1. Abt., V. Bd., 2. Abs.). mit Beiträgen von Nikolaus Poppe, et al. Leiden; Köln: E. J. Brill. S. 137–142.

〈和文〉

角道正佳（1987）「ダグール語南屯方言の特徴」『大阪外国語大学学報』74–1/2, 1–18.

栗林均（1981）「「*i の折れ」考――蒙古語における*i 音の発展の規則性と不規則性――」『モンゴル研究』12, 32–49.

――――（1989a）「ダグル語」『言語学大辞典 第 2 巻 世界言語編（中）』（亀井孝・河野六郎・千野栄一[編]，三省堂）pp. 597–603.

――――（1989b）「内蒙古語」『言語学大辞典 第 2 巻 世界言語編（中）』pp. 1427–1434.

――――（1993）「音声変化の規則性とその例外　――ダグル語における円唇母音の「折れ」――」『日本大学人文科学研究所研究紀要』45, 37–63.

栗林均 [編著]（2003）『『華夷訳語』（甲種本）モンゴル語全単語・語尾索引』（東北アジア研究センター叢書　第 10 号）東北大学東北アジア研究センター.

――――（2009）『『元朝秘史』モンゴル語漢字音訳・傍訳漢語対照語彙』（東北アジア研究センター叢書　第 33 号）東北大学東北アジア研究センター.

塩谷茂樹（1990）「ダグール語ハイラル方言の口語資料　ーーテキストと註釈ーー」『日本モンゴル学会紀要』21, 47–95.

津曲敏郎（1985）「ダグール語ハイラル方言の音韻体系」『北方文化研究』17, 227–240.

――――（1986）「ダグール語ハイラル方言基礎語彙」『モンゴル研究』17, 2–38.

野村正良（1960）「蒙古語音韻史から観たハラチン方言とダグール方言との並行性に就いて」『名古屋大学文学部研究論集』22, 1–16.

〈蒙文〉

Namcarai & Qaserdeni. (1983) *Daɢur kele monɢul kelen-ü qaričaɢulun*. Köke-qota: Öbür monɢul-un arad-un keblel-ün qoriy·a.（拿木四来、哈斯额尔敦（1983）《达斡尔语与蒙古语比较》呼和浩特：内蒙古人民出版社）.

〈露文〉

Поппе, Н. Н. (1930) «Дагурское наречие» (Материалы Комиссии по исследованию Монгольской и Танну-Тувинской народных республик и Бурят-Монгольской АССР, в. 6) Ленинград: Изд-во АН СССР.

Тодаева, Б. Х. (1960) «Монгольские языки и диалекты китая» (Языки Зарубежного востока и Африки) Москва: Изд-во восточной литературы.

――――. (1986) «Дагурский язык» Москва: Наука.